

1. 評価結果概要表

作成日

平成 20 年 12 月 26 日

【評価実施概要】

事業所番号	4076800061		
法人名	有限会社 エム・エス・ケイ		
事業所名	グループホーム さくら		
所在地	福岡県朝倉郡筑前町長者町226-5 〒838-0204 (電話) 0946-42-5569		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成20年12月18日	評定確定日	平成21年1月26日

【情報提供票より】(平成 20 年 12 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 13 年 11 月 6 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 15 人	非常勤 0 人 常勤換算 11.4 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	2 階建ての～	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	11,500 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(一時金を含む)	有(200,000 円)	有の場合償却の有無	有	
	無		無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり		1,650 円程度	

(4) 利用者の概要(12月1日現在)

登録人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護 1	4 名	要介護 2	4 名		
要介護 3	6 名	要介護 4	4 名		
要介護 5	0 名				
要支援 1	名		要支援 2	名	
年齢	平均 83.7 歳	最低 68 歳	最高 96 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	火野坂医院 しのくま整形外科クリニック 筑紫野歯科クリニック		
---------	--------------------------------	--	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

施設介護の現状に疑問を感じた施設長が、地域高齢者にも生活の場を提供したいとの思いで設立したグループホームである。特徴として、活発な地域との交流があげられる。今年、地元の方の好意で閑作期の畑の一部を借りて野菜を栽培したり、夏祭りの出店での売上を地域自治会に寄付する等の実績がみられた。また、以前より交流してきた小学生が今春卒業を迎え、お祝いに利用者全員で雑巾を縫って贈ったところ、「有難うございます。ありがたくて使えません」と綴られたお礼の手紙が送られるなど、交流の過程で心の温かさや豊かさが自然と生まれている様子がうかがえた。利用者の高齢化に伴い、それぞれの利用者に応じた個別支援に切り替えるなど、あがらえない状況に対しても前向きに取り組んでおり、今後ますますの発展が期待できる事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価結果について運営推進会議時に報告を行い、職員へは勉強会時に内容を周知し、改善についての協議を行うなど、質の向上への取組みがある。この過程で家族との連携強化や個別支援等の成果が見られる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の外部評価にあたり、ユニットごとに職員で協議し自己評価を行い、事業所の現状と今後の課題等の理解に努めている。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 長者町区長、地区民生委員、寿会(老人クラブ)会長、利用者、家族、高齢者福祉課、地域包括支援センター職員を招いて2ヶ月毎の開催がある。会議では、ホームの概要や活動報告、外部評価の結果や現在の取組み内容の報告、行事や公民館活動等の情報提供、非常時の協力体制についての提案など地域交流やサービス向上に活かす取組みがある。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) 契約時に苦情窓口や苦情対応体制について説明を行っているが、実際は面会時に直接話されることがほとんどである。また、年2回家族会を開催し、会議の中でも意見等が出やすい雰囲気づくりに配慮している。意見や苦情については、内容に応じて、その場での回答や、職員会議で検討した後回答するなどの取組みがある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) お宮の清掃活動、保育園や小学校の生活発表会、地域芋掘りや「きず」狩り等、多くの地域行事に参加している。また、隔月ごとに「さくら便り」を作成し、利用者と共に運営推進会議のメンバーや派出所、消防署、保育園等に持参するなど地域との交流の機会の確保が継続的に実践されている。

2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	開設当初から「地域との交流を持ち福祉に貢献しま す」と、地域交流をうたっている。地域の中で、高齢者 がその人らしく暮らし続けることを支援する事を理念と している。また、事業所全体の理念に基づいて、ユ ニットごとにも理念を作成している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	玄関や各ユニット内に理念を掲示しており、自然と 目に入る工夫がある。職員へは入職時に説明が行な われている。朝礼時に唱和し、毎月のミーティングで 理念に基づいたケア内容について協議されるなど、 理念の実践に向けた取り組みがある。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	お宮の清掃活動、保育園や小学校の生活発表会、 地域芋掘りや「きず」狩り等、多くの地域行事に参加し ている。また、隔月ごとに「さくら便り」を作成し、利用 者と共に運営推進会議のメンバーや派出所、消防 署、保育園等に持参するなど地域との交流の機会の 確保が継続的に実践されている。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	前回の評価結果について運営推進会議時に報告を 行い、職員へは勉強会時に内容を周知し、改善につ いての協議を行うなど、質の向上への取り組みがある。 この過程で家族との連携強化や個別支援等の成果 が見られる。今回の外部評価にあたり全職員で協議 し自己評価を行い、事業所の現状と今後の課題等の 理解に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	関係者を招いて2ヶ月毎の開催がある。会議では、ホームの概要や活動報告、外部評価の結果や現在の取組み内容の報告、行事や公民館活動等の情報提供、非常時の協力体制についての提案など地域交流やサービス向上に活かす取組みがある。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への行政職員や地域包括支援センター職員の参加がある。また通所介護の開設に伴い、行政への相談等に加えて、利用者のサービス担当者会議への出席を依頼するなど、連携の機会が広がっている。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修への参加や、事業所内で勉強会を開催するなど制度の理解と普及に努めている。制度は高齢者・家族にとって有益な情報と捉え、契約時や毎年家族会時に制度の概要と利用手順等について説明を行なう等の取組みがある。現在も制度の活用を支援している。		
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、ほとんどの利用者に家族の面会があり、心身状況や暮らしぶりの報告、金銭出納帳等の書面を提示しながら、支出状況を報告している。面会が難しい家族には電話にて報告を行なっている。また、隔月で「さくら便り」を郵送し、行事やホームでの様子、職員の異動等を知らせている。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情窓口や苦情対応体制について説明を行っているが、実際は面会時に直接話されることがほとんどである。また、年2回家族会を開催し、会議の中でも意見等が出やすい雰囲気づくりに配慮している。意見や苦情については、内容に応じて、その場での回答や、職員会議で検討した後回答するなどの取組みがある。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ここ1年間は離職の事例がなく、ユニット間でも原則的に職員の異動はない。常日頃より職員が働きやすい環境を整えて離職を抑えるように工夫し、利用者との馴染みの関係が継続できる様な体制をとっている。新しい職員の採用時には、馴染みの職員が主に関わるようにし、利用者への影響がないように配慮している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用に関して、年齢や性別などによる制限は行われていない。資格や経験の有無についても問うていないが、高齢者に対する想いや理念への共感と、実践にむけての姿勢は重視している。また、慰安旅行の実施や資格取得の奨励、自己実現の為の勤務調整等の支援を行なっている。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	地域公民館等で開催される人権研修や外部研修に職員が参加し、事業所内で受講報告や勉強会を実施し、人権教育や啓発に取り組んでいる。また、日常の中で考えられる人権に関する問題について意識をもつように指導を行なうなどの取組みがある。		
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月のミーティング時に、勉強会を開催している。外部研修は開催情報を掲示し希望を募ったり、職員の経験等に応じて適切に振り分けを行なう等、参加の機会を確保している。受講後は受講報告書を回覧し、新しい知識や情報を共有する等、質の向上に取り組んでいる。		
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会、朝倉介護保険事業者協議会に所属し、定期的に部会に参加している。同部会では、情報交換や事例検討、イベント、職員相互の施設見学等を通じて、他の事業所との交流の機会を確保し、サービスの質の向上に努めている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には体験利用や数回の来訪を行い、安心して入居後の生活に馴染めるような取組みがある。また、共用型デイサービスも開設しており、通所利用から徐々に馴染んでいただく事も可能である。新しい利用者に対しては、職員が寄り添いながら、自然な形で他の利用者同士とのコミュニケーションを広げていくなど、雰囲気に馴染む為の配慮がある。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事や人生相談等、知識としての「学び」は勿論、寄り添うことで何かを「感じる」ことに重きを置いている。職員も利用者もねぎらいの言葉を掛け合い、「笑顔」を実践しながら、互いを支えあう関係を築いている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用前は、本人・家族及び関係者から収集した情報にてアセスメントを実施している。また、利用者ごとの心身の状況、日々のかかわりを通して利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努め、カンファレンス時に職員全員で意見を出し合い、把握した情報の共有化を図りながら介護計画に反映させる等の取組みがある。		現在、情報シートやセンター方式の一部を抜粋したアセスメントに取り組まれています。また、日々の支援経過の中にも利用者の思いや意向について多くの記録がありました。今後は記録の整備や様式を工夫され、情報の共有や個別支援にむけて大いに活用されるような取組みを期待します。
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者が、本人の希望や家族の意向等をまとめ、ケアカンファレンスにて職員全体で協議し、利用者本位の介護計画を作成している。介護計画の内容は利用者や家族の意向を反映させ、生きがいや楽しみに着眼した支援となっている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	毎月職員全員でのカンファレンスを実施し、全ての 利用者についての情報交換や確認を行い、3ヶ月毎 の評価、6ヶ月毎の介護計画の見直しを行なってい る。また、心身状況に変化が生じた際もその都度対応 し、関係者で話し合い、現状に即した新たな計画を作 成している。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	医療連携体制や協力医療機関との連携により、極 力入院回避や早期退院に向けて支援している。また、 かかりつけ医への受診等、利用者、家族の状況 や要望に応じた、柔軟に対応している。地域の高齢者 についての相談や、見学等にも柔軟に対応している。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している	契約時にかかりつけ医の継続と協力医療機関の利 用について相談し、本人・家族の意向に沿って支援し ている。ホーム協力医と歯科の定期的な往診・受診を 行い、緊急時はいつでも医師による対応が可能であ る。また皮膚科や眼科等、地域の各専門医療機関と も連携しながら適切に支援している。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	契約時等のできるだけ早い段階から重度化へ向け た説明を行っている。センター方式を採用した本人の 意向の確認や、ホームとして対応できる最大限のケア の検討など、その都度、関係者による話し合いを積み 重ね、利用者や家族の意向に沿った支援にむけて最善 をつくせるように対応している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	職員の利用者に対する対応等について、勉強会や その都度の指導等の取り組みがある。個人情報につ いては、職員に個別で指導した上で「個人情報秘密保 持誓約書」を交わしている。また、勉強会等で意識向 上を図り、個人記録等も事務所での一括管理や漏洩 の防止に努めるなどの取り組みがある。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	ホームとしての基本的な流れはあるものの、利用者 一人ひとりの状態に配慮しながら、決して無理強いせ ず、食事や入浴の声かけ等を行うなど、その時々で 利用者の意思とペースを尊重した対応がある。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	地域の方から借りた畑で栽培した野菜の収穫等、 新鮮で安全な食材の調達や、食事の準備・後片付け など、食事を大切な活動の一つとして意欲的に取り組 んでいる。メニューもなるべく利用者の好みを反映さ せ、利用者の状況に応じた食事形態でありながら、見 た目や食感、食事の雰囲気等を楽しめるように工夫し ている。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミ ングに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	入浴は毎日準備している。実際は週2～3回位の利 用が多く、時間は午前から夕食後の間で支援してい る。あまり入浴を好まれない方には、タイミングを見計 らった声掛けや、足浴、清拭等を行い定期的に清 潔保持の機会を確保している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	洗濯物干しやたたみ、食事の準備や後片付け、花 見や外食、行楽など一人ひとりの出来る事や好きな 事等を把握し、役割や楽しみごととして介護計画に位 置付けての支援がある。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	日常的な散歩やドライブ等、積極的に戸外へ出かけ る機会を確保している。また、誕生祝いの一環として 利用者の希望を聞いての個別外出支援等も実施して いる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	開設当初から職員に対して、鍵をかけることの弊害 について認識と理解を浸透させる取り組みが行われて おり、日中は常に開錠されている。センサー設置や利 用者の様子を良く観察した上での散歩の付き添いや 声かけを行い、利用者の自由で安全な暮らしに向け ての配慮がある。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身につ け、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	年2回、消防署の立会い訓練と自主訓練が実施され ている。運営推進会議時に、非常災害時の協力体制 について呼びかけを行い、民生委員や自治会長から の同意をとりつける等協力体制づくりへの成果がみら れた。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	栄養価やバランスを考慮して献立を作成し提供して いる。おやつ等もホームで手作りし、利用者の好みや 食習慣、キザミ等の食事形態にも対応できるように支 援している。食事摂取量は毎回記録し、水分摂取に ついては必要に応じて観察や水分補給を促すなどの 支援がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは自然光をふんだんに採り入れ、数種類の ソファや椅子が準備されている。広い掃き出し口が あり自然の空気に触れながら、ゆっくりと居心地良く 過ごせる工夫がある。また、こまめな清掃や、第三者 から見た危険箇所の点検と改善等も計画されており、 安全かつ快適に過ごせるように支援している。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	和室・洋室共にクローゼットが設備され、寝具や調 度品、写真、ソファ、テレビ、仏壇など、利用者 にとっての思い出の物や馴染みの物が持ち込まれ、居 心地良く過ごすための工夫や配慮が見られた。また 定期的に利用者と担当職員が整理整頓を行なうなど 住居整備への支援も見られた。		

は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号